



薫小だより

「気づき・考え・行動する 薫の子」



郡山市立薫小学校

学校便り No. 8

令和6年 6月19日

文責：校長 齋藤和彦

～交通事故絶無を期して～ 校門付近[東側道路]駐停車自粛を

昨年度の秋にも学校だよりやメールで保護者の皆様をお願いした『校門付近の駐停車による事故防止』について、再度、駐停車自粛を強化してお願いいたします。

校門付近の児童送迎による朝夕の送迎車両駐停車による通行車両や自転車通行者への危険/迷惑が改善されない状況です。

雨天時は、この駐停車倍増の現状です。

< 通行者や地域の方々からの声 (苦情) >

■「毎朝の薫小校門付近の数珠繋ぎの駐停車は、とても迷惑です。停車車両を避けて通るときの注意ストレスを考えてください。毎日、毎朝のことです。」

■「毎朝、特に雨の日の駐停車マナーは、いつになったら改善されるのですか。ここは学校だけの道路ではないはずです。」

■「薫小を卒業した息子が自転車で通学しています。停車車両を避けて通らなければならず、後方からの車と接触しそうになりました。今後も改善されないのであれば、遠回り通学路に変えざるを得ません。」

お子さんの車送迎の理由は、それぞれにあるのだと思います。ですが、そのほとんどは、各家庭での子どもとの“ひとがんばり”で改善できるものも多いものと思います。

 校門付近への駐停車の自粛について徹底の域までの改善を期してのお願いです。

◇ 裏面に、昨年度の秋をお願いした[R5 学校だよりNo.20]を載せました。

○ 区域外通学家庭の車送迎では、校門横付けではなく、少し離れた安全な場所で降車して、そこからは姉妹で歩いて(雨の日も皆と同じく傘をさして)登校させるご家庭もあります。



～特別な場合を除きます～

けが/早退時の迎え、特別な配慮を要する理由(支援学級の登下校等)による場合を除きます。

多くの保護者の方から、きっと、「何を厳しいことを」という声も承知の上で、【交通事故ゼロ】を徹底します。



子ども達にもお願いしました 駐停車ゼロの域まで徹底願います

7月5日は、『校地内交通安全の日』です

2012年7月5日から、今年で12年になります。当時2年生だったあの子が生きていれば19歳の成人になっているはずでした。

2012年7月5日朝に、郡山市内小学校の校地内で交通死亡事故が起きました。

この死亡事故は、登校して正門付近にいた2年生の男子が、忘れ物を届けに来た保護者の車にひかれて亡くなったという事故です。

被害者が児童、加害者が同じ学校の保護者という、とても悲惨な事故でした。

それ以来、郡山市では7月5日を『校地内交通安全の日』として、このような悲惨な事故を繰り返さないように語り継いできました。

また、『歩車分離』といって、歩行者(子)と車と一緒にならないように動線を分けて、安全確保を強化してきました。

本校でも、交通事故ゼロを期して、(これまでは..) (うちだけじゃない) (あの家庭もやってる) (今日だけは) の常態化を徹底の域まで改善し、朝夕登校時の安全安心を確かに担保できる“薫マナー”が求められます。

◎ 正門前(正門東側)道路での送迎による駐停車を自粛していただきます。

(やむを得ない場合は、正門前ではなく、保護者のご判断による安全な場所で乗り降りさせてください。※少々歩かせて)

◎ 薫小学区エリアの利便性から、児童の徒歩通学/下校を奨励します。(雨天時も)

◎ 児童へも徒歩登下校をお願いしました。

※ これは校門前道路の法的規制を強制するものではありません。あくまでも、保護者マナーご協力をお願いするものです。どうか積極的な行動変容をお願いします。

◆◆ 校長室より ◆◆

日々の学校教育の中には、発達段階に応じて「自分のことは自分です」「自分で考える」「自分の力で取り組む」等の『自立した姿勢』を育てる活動がいたるところにあります。

『最後まで自分でがんばろうとする根気強い姿』と、登下校にみる子どもの姿に相関もあるようにも思えます。

